



岩手医科大学附属病院 感染制御部

学部統合新型コロナウイルス対策 危機管理連絡体制について



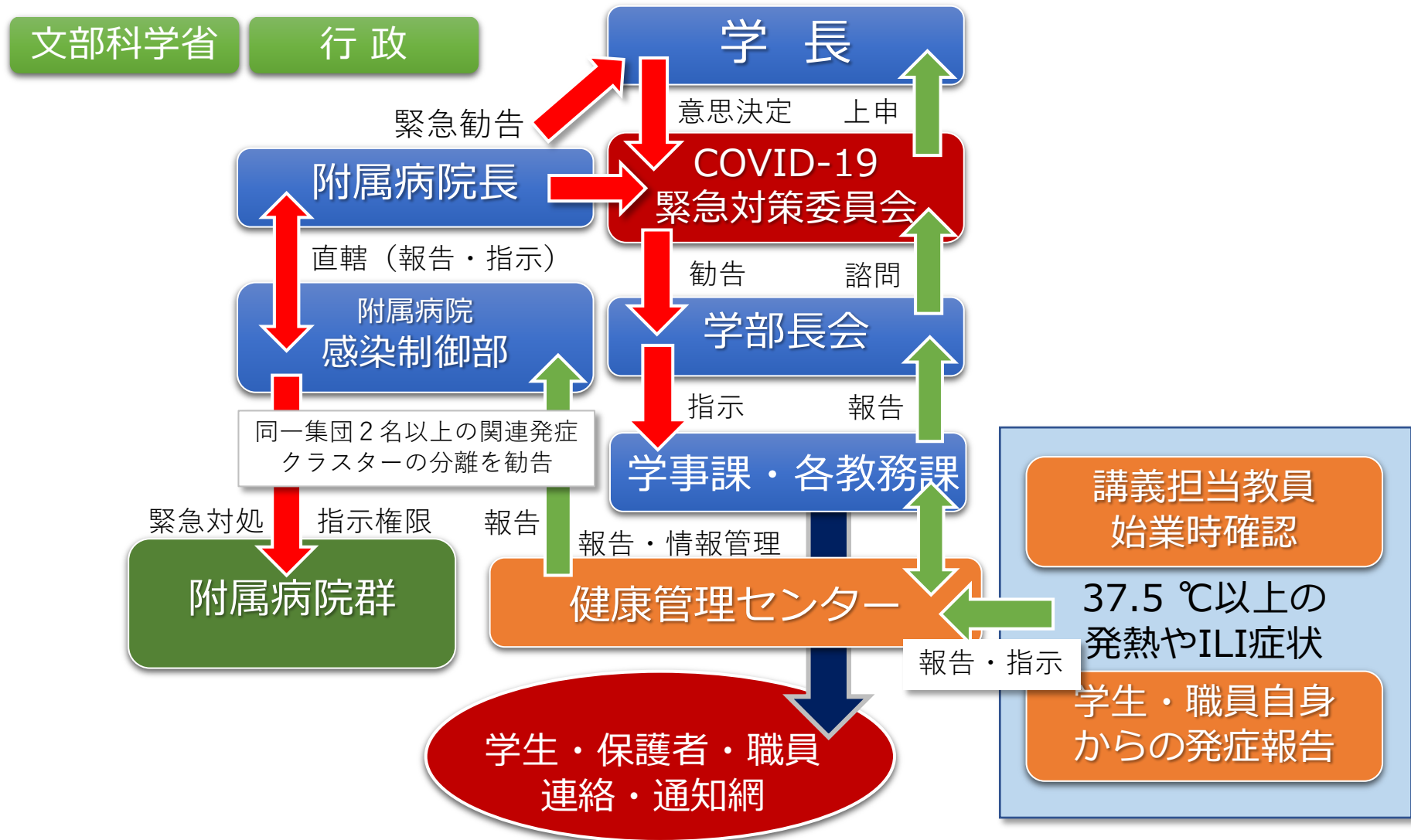
岩手医科大学

医学部・歯学部・薬学部・看護学部

および

附属医育機関

学部統合緊急対策組織の概念図



各講義担当教員の皆様へのお願い

流行早期認知のための対策

令和 2年 3月 7日

- 全ての講義開始時にインフルエンザ様疾患（ILI*）の確認をしてください。
- 口頭で有症状の学生を確認し、有症状の学生については健康管理センターにおける体温の測定を指示してください。
- 明らかな症状がある学生については、近医を受診するよう促してください。
- 担当教員は有症状者について、教務課に連絡してください。
（教務課 → 健康管理センター → ICT[†]、該当無き場合は連絡不要です。）
- 当該学生には、受診後に受診結果を電話報告するよう促してください。



岩手医科大学 学長

*** インフルエンザ様疾患（ILI：Influenza like illness、CDC）**

37.8℃以上の発熱と上気道症状・咳・咽頭痛・筋肉痛等を有する患者。ただし、インフルエンザ以外の明らかな原因がある場合を除く。

† ICT：感染制御部 内線 6111

学生に対する緊急連絡（１）

令和 2年 3月 7日

国内において、新型コロナウイルス感染とみられる事例が報告されていることを受け、学内におけるまん延（流行）を抑制するため、大学として以下の対策をとる事としたので学生諸君に周知する。

学長 祖父江 憲治

- 各自において、37.5 °C以上の発熱が4 日以上見られたら健康管理センターに連絡すること。
- 健康管理センターが開いていない場合は 翌朝始業後（午前8:30分～）直ちに連絡すること。
- 発熱・咳・鼻汁・咽頭痛・頭痛・全身倦怠感などがある場合は近くの医療機関を受診すること。
※ 県内医療機関の取り決めにより、熱がある場合は受診前に電話する必要がある。
- 医療機関受診後は速やかに、診察結果を健康管理センターに電話連絡する。
- インフルエンザ等と診断された場合は解熱後、遅滞無く診断書を提出する。（提出先：教務課）
※ 診断書の提出がない場合は欠席理由の取り扱いにおいて不利になる場合がある。
- 健康管理センター：019-651-5110 **ダイヤルイン 5019**

- 今後は新型コロナウイルス感染症による休講や試験の延期などの情報がメールによる連絡網で配信されることとなりますので指示に従ってください。
- すでに連絡網に参加している学生は各自の責任で必ずチェックしましょう。
- 携帯電話を持っていない場合は教務課にお問い合わせください。



岩手医科大学

学生に対する緊急連絡（２）

令和 2年 3月 7日

米国をはじめとする感染症対策の専門機関からの情報では、医療系高次教育機関における新型コロナウイルス感染症の流行は社会に大きな影響を与えることが強調されている。

令和 2年 3月 5日に日本政府が掲示した「新型コロナウイルス感染症の対応について」を再度確認のうえ、下記の注意に基づき、各自が医療系教育機関の学生としての責任ある行動をとるよう希望する。

政府HP https://www.cas.go.jp/jp/influenza/novel_coronavirus.html

学 長 祖父江 憲治

- 所属のクラスや部活で 37.5℃以上の有熱者が同時期（7日以内）に2名以上発生した場合には代表者が、原因不明と診断された場合は学生本人が健康管理センターに電話で連絡する。

※ 健康管理センター：019-651-5110 ダイヤルイン 5019

- 3月9日以降、大学からの対策解除の指示があるまで、以下の行動を励行する。

＊ 不要不急の会合への参加を可能な限り自粛する。（部活・サークルを含む）

※ 部活内で発症者が見られた場合は当該部活の一時停止措置が指示されることがある。

＊ 外出の際は人ごみを避け、人ごみに入る必要がある場合はマスクを着用する。

＊ 共用物（電話、キーボード、ドアノブ等）に触れたあと、首から上に触れる日常的行為（洗顔、化粧、歯磨き、コンタクトレンズの装用など）の前には手指消毒または流水とせっけんで手を洗う。

- 新型コロナウイルスによる休講や試験の延期などの情報が携帯メールによる連絡網で配信されることとなりますので連絡に従ってください。
- すでに連絡網に参加している学生は各自の責任で必ずチェックしましょう。
- 携帯電話を持っていない場合は教務課にお問い合わせください。



岩手医科大学

学生に対する緊急連絡（３）

令和 2年 3月 7日

学内でのコロナウイルス感染症の発生は、教育スケジュールへの影響が大きいばかりか、地域社会や附属病院での実習や課外活動にも影響を与える可能性があるため、下記の対策をとることとなったので、学生および教職員各位に確実に周知されたい。この連絡方法は緊急性を重視したものであり、今後の状況変化により、随時変更される暫定的システムであることを理解したうえで、学生諸君の積極的な協力を期待する。

学 長 祖父江 憲治

- 学内掲示による連絡では、感染対策に必要な迅速性が望めず、掲示を確認するための集合が感染を拡げる可能性が高いため、携帯電話のメールを用いて以下の情報を配信するものとする。
 - * インフルエンザ様疾患の流行に係る、講義及び試験スケジュールの変更情報
 - * 感染症（インフルエンザ様疾患）の届出に関する情報
 - * その他、学長名で出される大学としての公式な緊急情報
- 携帯電話によるメールを受信できない学生は至急救務課に相談し、代替的手段を確保すること。
- 手続きおよび代替的手段としては、次のような方法が考えられる。
 - * 既存のメール連絡網[†]（学年・部活・サークルなど）に登録し教務課に申告する。
 - * インターネットのメールアドレスを教務課に申告する。 † 既存の連絡網：らくらく連絡網など
 - * メール既登録者からの情報転送（ただし、直接口頭での伝達は推奨しない。）
 - ※ 特段の理由がある場合を除き、原則として学生個人への電話連絡は行わない。
 - ※ メールの使用が困難な学生については従来通り、掲示物による情報確認が原則となる。

新型コロナウイルスの新常識

- 旅行先などから感染危険度を判断することはできない。（※流行地はもはや全国に広がり、岩手においても検出の日が迫っている。）
- 発熱前に感染したかどうかの確認はできない。（※医療機関で行う行政検査の陰性は新型コロナウイルス陰性を意味しない。）
- 現在、個人単位の確定診断遺伝子検査は行われていない。
- 重症者以外は入院を要さず、治療法は保存的治療である。
- 中年以降の重症者が圧倒的に多いが、若年例も報告されている。
- 薬による発症予防は知られていない。
- マスクだけでは予防できず、顔に触れる前後の手洗いが重要。
- 喘息、糖尿病、慢性心不全、腎不全、免疫抑制作用のある薬剤を服用中の人々は特に重症化のリスクが高い。

新型コロナウイルスの 感染リスクを高める条件

- 換気が悪い部屋
- 狭い部屋に集まる
- 多くの人が集合する
- 2メートル以内で接する
- 大声を出しあう、唄う、笑う
- 唾や咳がかかる距離にいる
- 喫煙する、喫煙者とともにいる
- 同じ器具を複数で使用する
- 食器や家具に直接触れる行為
- 睡眠の不足や疲労する行動
- のどや目に炎症がある
- 空気が乾燥している
- お酒を飲んでいる
- お手拭きやタオルを共用する
- 鼻や口を手で拭う
- 入浴用具を共有する

